

第4回日進市一般廃棄物処理基本計画策定委員会

日 時 令和3年5月13日（木） 午前10時から
 場 所 日進市役所4階 第3会議室
 出席者 小林会長、原副会長、井上委員、相木委員、松原委員、奥村委員、山内委員、
 山本委員、稲吉委員、水野委員、事務局
 欠席者 小出委員
 傍聴の可否 可
 傍聴の有無 有（1名）
 次 第 1 あいさつ
 2 報告事項
 第3回策定委員会配布資料の修正について
 3 議題
 目標達成状況及び目標項目の見直しについて

発 言 者	内 容
事 務 局	1 あいさつ
事 務 局	本日の会議の定足数を確認します。一般廃棄物処理基本計画策定委員会の委員定数11名に対し10名に出席であるので会議は成立しています。会議については原則公開となります。 続いて、委員の委嘱について、北新区長が4月1日で交代されましたので、改めて委嘱します。北新区長の稲吉様からあいさつをお願いします。
委 員	— あいさつ —
事 務 局	議長は会長が行うこととなっています。
会 長	今年度も引き続き会長を務めることになった小林です。昨日、食品ロスのニュースで、日本が世界で一番食品ロスが多く、廃棄しているようであり、1人が、ごはん茶碗1食分捨てると、日本列島で600万トンを超えるくらいの廃棄があるということでした。市としても、この食品ロスについては重要項目となっている。小さなことから始めていくことを心掛けながら、さらに市としても施策を立てて一歩ずつ進めていきたいと思えます。 それでは、第4回日進市一般廃棄物処理基本計画策定委員会を開催します。 本日の傍聴人はいますか。
事 務 局	1名います。
会 長	会議は原則公開となっているので公開したい。意見はありますか。
	(異議なし)
会 長	異議なしということで、傍聴人を入室させます。
	2 報告事項 第3回策定委員会配布資料の修正について

発 言 者	内 容
会 長	事務局より説明をお願いします。
事 務 局	(説明)
会 長	ただいまの説明に対し、質問、意見はありますか。 当日資料3の15ページのクロス集計において、年齢が高くなればなるほど分別している一方、年齢が低くなるほど「知らなかった」という傾向があると書いてあります。そもそも平成30年以前のことを知らなければ、「知らなかった」と答えるので、そのような選択肢は必要だったのか。知らないものは知らないと答える。転居前のことで知らなかったなど、そういった文言が必要だったのだらうと思います。
事 務 局	特に大学生などと考えます。
会 長	若いから関心がないということではなく、そもそも日進市にいなかったということもあります。
事 務 局	そういった意味では、この47.5%という数字をそのまま扱ってしまうのは注意が必要だと思います。
会 長	項目が1つ足りなかったという反省はあります。
事 務 局	次回も同じようにやっていくことになると思うので、記録として残しておきます。
会 長	もう少し考慮しなければいけない。他にありますか。
委 員	15ページで10代が「知らなかった」というのは、驚いた。
会 長	回答数は3名となっています。
委 員	10歳代の「知らなかった」の割合が高かったので驚いた。子どもはもっと知っていると思っていた。子どもたちが「知らない」という割合が多いというのが見える。
会 長	回答者数が3名であるから、これが学生だとすれば、転居してきた学生ということになる。過去のことは知らないのは当然ということになる。もっとサンプル数多くて、今の項目があればそういうことかもしれない。
委 員	若い世代が3名であっても、その3名が当然知っているであろうという意識があった。
会 長	問5の問いかけに2つの内容が入っている。例えば、『本市は、平成30年から、「陶磁器・ガラス」「金属類」の分別と収集日を変更したことをご存知ですか』が1つである。また、『変更された方法に沿って分別していますか』が1つで、『知らなかった』といわれると、もともと知らなかったということも結果に出たかもしれない。『また、変更された方法に沿って分別していますか』ということであれば、『しています』、『していません』となる。そもそも聞き方が、ずっといる方に対しての聞き方だったのではないかという反省がある。分別していないかどうかはここではわからないところがある。ただし、10代で3名というのは少ない。若い人は割と真面目であると思う。
副 会 長	これは自分の感想だが、会長から指摘があったように、単身世帯の可能性があり、そこへの周知の問題もあると想像します。個人の意識の問題では、1人世帯でクロス集計をすともっとはっきりすると思う。1人世帯なのか、2人世帯以上なのか、そうすると1人世帯は移動してきている、短期間住んでいるといった方が想定される。そこでデータを見直すと、もう少しこの議論ははっきりすると思う。できたらその分析を

発 言 者	内 容
	してほしい。これは周知の方法に直接関わるのでやったほうがよい。例えば、学生下宿のようなどころに対しては、特別な周知の仕方をするなど、そういうものも政策につながると思う。
事 務 局	単身世帯のクロス集計をしてみます。
副 会 長	単身世帯、高齢者の単身世帯、それから若者の単身世帯ではまったく生活パターンが違うため、そういったことを意識した上でクロス集計をする必要がある。単なる1人となると、高齢者の1人で暮らしている方も含まれるので、そういう方はずっと長く居住されている方であるので、市とのつながりはあると思うが、若い方は、例えば就職して1人暮らしを始めた方とか、学生で来たとか、そういう方になる。そういう方は全然知らないまま来ている。そのため、日進市の政策について周知されていない可能性はある。
事 務 局	大学の方には、入学説明会等の場でガイドブックを配付している。
副 会 長	そうだとすると、どこの属性の人が『知らない』というのかは、協力してもらう意味では、追求していく必要があると思う。いくつか可能性を申し上げたが、どこの属性が知らないのかということが、ある程度絞れるのであれば、そこに集中的に広報できる。今、学生にはそのように周知しているということであれば、そうでないところがきつとあるという話になる。そこをつぶしていくことは重要である。どのようなクロス集計がよいのか、仮説を立ててほしい。
会 長	クロス集計の作業は、市の中でされているのですか。
コ ン サ ル	今回、年齢で集計を出していますが、世帯人数も聞いているので、そこでクロスを掛けることはできます。例えば、20歳代で1人暮らしの方がというようなこともできると思います。その辺で事務局と相談しつつ、数値を出します。
会 長	今までのクロス集計の項目というのは、何に対してするかというのはこちらから提案しないとしないのですか。これとこれをしてほしいとリクエストすれば、してもらえるとということですか。自発的にこれとこれをクロス集計したという結果を出してもらえるのですか。
事 務 局	アンケート結果に載せた部分はコンサルにお願いし、こちらから必要な知りたい部分について、調べてほしいということを伝え、実施してもらう予定です。
会 長	予算上は大丈夫ですか。
事 務 局	そこは想定しています。
会 長	例えば、先ほどの10代の方、他の項目の10ページの年齢別のところで、一番上に「課題だと考え、日頃から意識している」の割合がある。10代は3名だが100%である。3名とも課題だと認識しているという結果があり、先ほどの15ページの意見で「知らない」ということを見ると、意識はあるが知らなかったということで、この制度以前のことは知らなかった、変更されたことは知らなかった、今は知っているというような推測ができます。横並びで見るクロス集計と合わせて考えて、行動を追跡するというのを、もう少し考えないといけないと思います。誤解されないような解釈をもう少し入れなければならない。
委 員	11ページの職業別でみると、学生が相当数います。10代の方の3人は多分、学生だ

発 言 者	内 容
	ろうと思われるが、20代の方々が結構回答数がありながら、多分この辺りも学生だと考えると意外に15ページのところに20代の方は半分くらいしかいない。ということは、先ほど就職してこられた20代の方もいると思うので、世帯を持ったり、住んでいる方がいる割には20代の半分が知らなかったということは少しショックな数字である。
副 会 長	どのように周知をするべきなのかというのは、それなりに大きな課題になると思います。
会 長	もう少し中を比較しながら考えなければならない。市内に大企業があるので、そういったところでの周知の仕方、その辺を事業者とどのように協力してやっていくというのが不足していた、十分ではないことが読み取れます。そこをこれからどのように実行していくかということになります。
副 会 長	どのようにやるのが一番よいかかわからないが、生活パターンや居住パターンというものがいくつかあり、組合せで、2人世帯の若い人と1人世帯の若い方は違う。それから独居の高齢者とそれ以外の高齢者世帯というような、ある程度、生活リズムなどで、分けて集計できるとよいと思います。
事 務 局	今の意見の内容を分析するには、例えば国勢調査のような項目が拾えればかなり絞り込めると思います。これは今後の課題となります。できるだけ今回もコンパクトにということで意見をもらいましたが、その部分は重要なことであり、今後課題となってくるものと思います。
会 長	何年住んでいるかということ聞いています。5年未満の方は20%くらいいる。そういったこともクロス集計を取れたら少しはわかってくると思います。それでは、次に移ります。
	3 議題 目標達成状況及び目標項目の見直しについて
会 長	事務局から説明をお願いします。
事 務 局	(説明)
会 長	目標値の見直しは、次年度は令和8年ですか。令和8年度で数値を見直すのですか。
事 務 局	今、この4つの項目を目標として出しています。年間ごみ量・1人1日当たりの家庭系ごみ量・リサイクル率・生活排水処理率の実績値目標といった項目があります。それを見直すかどうかです。
会 長	確認をしたい。今から議論するのは、4つの項目で、4項目は変わらないということによいですか。その上で、令和8年度の達成目標の数値を変えるかどうかという議論をするということによいですか。
事 務 局	項目を変えるかどうかも含めてお願いしたいと考えています。
会 長	年度と項目の両方で、年度は8年度でよいか。項目も変えるかもしれないということによいですか。
事 務 局	項目は経年比較する面からも変えないほうがよいと考えます。先回のときに少し変えている部分があります。その部分での相談ですが、事務局案としては変えないほうが経年で比較できるのでよいのではと思っています。

発 言 者	内 容
会 長	変えるべきかどうか、理由等含め意見はありますか。
副 会 長	私の意見ですが、比較のためには指標を変更しないほうがよいと思う。ただ、細かい政策を考えるときに、プラスアルファの指標をつくるということはありません。そういう意味で項目の再検討という議論をしたほうがよい。先ほど、リサイクル率の話がありました。私の理解では、リサイクル率は愛知県の実態調査の廃棄物処理データから算出していると思いますが、例えば極端ないい方をすると、このデータのもとでは尾三衛生組合で割り戻しなどをやっていると思います。配分していたりしないか。あるいは、中間処理業者の努力に依存するのか。
事 務 局	それも関連します。
副 会 長	日進市の努力が直接反映される指標はない。他の要因が混ざるということは、結果的には愛知県の1つの指標にはなりますが、直接的な指標ではないということが1つあるのでないかと思っています。市の清掃概要で、搬入、要するに市でやっている作業のデータは割と直接的に反映をされています。これも全部ではない。市の清掃概要のデータを使った、資源化の指標が、プラス1つあってもよいという印象を受けました。そうすると、市民の分別率も1つの指標になるかもしれないし、資源化以外の可燃ごみの1人当たりの量が指標になるかもしれないといった議論があってもよいと思います。市や市民が努力したところが反映される指標であるから、じゃあそれを頑張ろうというのは市民に伝えやすいはずで、それが混ざっているような話だと、中間処理がどうかしてほしいということになりかねない。それはそれでやらなければならない。市としては中間処理業者のリサイクル率を上げるのは役割です。それはそれとしても、市民側の努力が見えるような指標をプラスでつくるといふことの検討もしたほうがよいのではないかという意見です。では市民が頑張っているのにリサイクル率が上がらないのは、行政が悪いのではないかという、そういうことになる。リサイクル率を上げるように中間業者に指導をしてほしいと言える。市民が頑張っても上がらないのはどうしてだという話になってしまうので、そういう話だと思います。今の項目をやめる必要はないが、プラスアルファの評価ができるような指標を考えるのは、きちんと真面目にやろうとするのであれば大事だと思います。もう1つ、1人当たりの可燃ごみ量がよいと思っているのはなぜかという、ペットボトル、トレイなど、市のデータに入ってこないものが増えているからだと思います。例えば、ペットボトルはスーパーの回収等に捨てに行くこともある。分別率にするよりも、可燃ごみ量がどのくらい減っているのか評価したほうがわかりやすいかもしれない。これも1つの提案です。そういったことも含めて、事業系一般廃棄物の努力目標と、家庭系の努力目標ということで、新しい指標を持ってつくるのであれば、それは遡っていったほうがよい。そういうものがあってもよいと思います。そうすると、みんなの努力が見えやすくなる。今後の詳細検討に、念頭に置いてもらうとよいと思います。
事 務 局	今の項目に追加するということがよいですか。
副 会 長	今の項目を動かしてしまうと、何をやっているのかわからなくなるので、それは置いといて、より真面目にやろうと思うと、他の指標が必要になるかもしれないという話です。

発 言 者	内 容
事 務 局	6月の部会で、先ほどの目標数値のほうを考えようという話もしていましたが、今、意見があったのでそれも検討します。もう1つ、プラスアルファの指標も一緒に検討するというかたちでよいですか。事前に事務局からこのような指標はどうかというたたき台を出して、6月に議論してもらおうということでよいですか。
副 会 長	よいと思います。そういった提案でどうでしょうか。
事 務 局	今、副会長が言っていた例の他にも、他の委員からもこんな目標値、こんな指標はどうかといったことがあればご意見をいただきたい。今この場では出ないこともあるので、次回の部会でも揉むというようなかたちでいかがでしょうか。
委 員	今の話の関連で、個人としては1人当たりの家庭系ごみ量は必要であるが、もう少し細分化して、先ほど副会長がいわれたように可燃ごみ量も出してもらいたい。それを出さないと1人当たりの家庭系ごみというの大まかになってしまう。実際に努力ができるのは可燃ごみだと思います。そこに努力目標がこれだけ少なくしたいが、これだけ出しているからという、個人の努力目標が自然と湧き上がってくると思う。それを出してほしいと思います。もう1つ、年間のごみ量の実績が横ばいで推移していると思いますが、令和8年度の目標値は、この数値でいけば目標値はある程度接近していくと思っています。理想値を見るとショックのようなものを受け止めました。現時点で、市はどのようなことを市民が行ってくれたら効果が上がっていくのではないかとということがあれば教えてもらいたいです。
会 長	それは、委員会で一緒に考えたいと思います。
事 務 局	例えば、可燃ごみを出すときに問題なのは、水分が多いと燃やすのに時間が余計にかかることです。各家庭でできるだけ水切りをしてもらうようにということで、どんな水切りのアイデアがあるか、ワークショップなどをやって意見を出してもらいたいと考えています。市民自らが参加することによって、自分事のスイッチが入って協力してもらえる。今後、目標や数値が出た暁には、市として、あるいは市民としてどんなことができるのかということ、皆さんで議論してほしいと思います。
副 会 長	理想値は何であったかと思い、前の改定の際の資料を見ていました。理想値は全部をきちんと分けて行ったら、こうなるということでした。
会 長	中身を見て、これの何パーセントを目標にするかといった話でした。それを仮定して出したのが目標値です。
副 会 長	最初のときの目標はそうでした。それに合わせると今はどうなっているかという、そのような分析もする必要があります。
会 長	もう1つは、人口の想定もありました。それが実態とどうなのか、それは修正できると思います。修正した上で数値を見るということも、当然そうなるので、双方振り返りの場を設定してもらおうとよいと思います。
事 務 局	前回、不燃のごみの分別についての施策を行いました。そこから5年経ったが、その検証も必要だと思います。施策がよかったのか、悪かったのか、この次にどう進めていくのか、そこを抜きには進めないと考えます。それに合わせて項目の考え方というのをも整理していき、数値的なものも拾い出しをしたいと思います。
副 会 長	前の改定でいろいろと想定をしています。その想定がどうなのかということです。

発 言 者	内 容
事 務 局	確かに何度も数字を提示した記憶があります。
委 員	資料5の5番、前の会議でリサイクル率は、民間事業者がいろいろなところにコンテナを置いて回収しています。市民の方は同じようにリサイクルして出している、そこに入れた分についてはカウントされない。あくまで市が管理している部分の重量だけでやっている。
事 務 局	一部分、事業者からもらったデータはありますが、全部ではない。
委 員	今、行政はお金がないので、民間事業者を使っている、例えば一宮市などはたくさん集積所がある。なるべくこういったものを活用すれば、例えば日進市であればエコドームで、うちの近くにそのような置き場があれば資源として出しやすい。それを出してしまうと、日進のリサイクルの回収率は少しずつ落ちている。今、日進市に何か所くらい民間の回収場所があり、それが年々どれくらい回収しているのかを拾えるのであれば、それと比較して、市民の方はリサイクルにたくさん出しているが、民間のほうがたくさん上がっていて、市のほうが下がっていくというグラフが出るのかわからないが、そういったところまで把握していかないとリサイクル率というのは市民の方が努力していないように取られてしまいます。
事 務 局	事業所が回収したものについては、一部分ですが、情報を把握している部分については、資料4、資料5の資源ごみ量の中の上から4つ目の事業者回収がその数値となっています。
委 員	これが事業者からもらったデータですか。
事 務 局	全部の情報ではないですが、もらった情報を載せています。
委 員	市の施策としては、こういった事業者を使っていこうという考えはあるのですか。市の空いている土地にコンテナを置いていくのかはわかりませんが、民間の方も借りてまで行うのは難しいと思う。市の土地があり、そこにこのような場所があるがやらないかといった事業展開は考えているのですか。
会 長	これを含めて、これから議論をしていきたいと思います。
事 務 局	現時点では考えていませんが、可能性としてSDGsが今後の課題となっているので、販売者としての販売の責任という部分で資源ごみを回収される企業や事業者も増えています。今のままだと、リサイクル率はどんどん減っていく。先ほど意見があった分別率が今までなかったが、市民がいかに努力しているのか評価できるような指標がないかと考えています。
会 長	もともとこの目標値4つを選んだのは、国の目標値と合わせて項目を設定したという経緯があります。リサイクル率も、今、実態がよくわかなくなっているのは時代に合っていないということもある。先ほど提案があった、燃えるごみの量で数値目標を設定するというのは実態に合っています。市民から出てくるごみ全体として、資源ごみもすべて含む目標と、実際に処理する量と分けて考えることは必要であると思います。国の数値データの取り扱いの方法と合わせたので、相互になっていないというのは実際にあると思う。ここはもう一度、皆さんの努力の証がしっかりと評価できる数字が大事なので、それを出していきながら、これから議論を進めていきたいと思います。可燃ごみの数値を出していくことも1つの方法です。それが一番お金を減らす方法です。

発 言 者	内 容
委 員	事業者の回収で、スーパーの店頭で回収するものを想像していましたが、チラシを家庭に配って何月何日に無料で回収するというものもあり、それに出す人が非常に多いと思います。各戸回収なので置いてチラシを貼っておけば持っていき、それはお金を取らない。最初は不安であったが、無料で引き取ってくれて、その後は何も連絡もない。もう2年くらい続いているが、近所ではそれを利用しています。そういったものを利用したらリサイクル率は下がる。業者が遠くからきて集めていく。ポストにチラシが入っていて、それを見てこの日に持って行ってくれるということで、朝8時30分までに表に出して、そのチラシをつけておくと業者が持っていくというものである。割と細かいものまで持って行ってくれる。ストーブに古い灯油が入っているが、そのまま持って行ってくれるかと電話を掛けたら、それも引き取ってくれました。灯油を捨てられなくて困っていたので、ずっと家に置いていた。割と便利ではないかと思います。
会 長	それは、心配は心配である。出した後はどうしているのかがわからない。
事 務 局	行政側から申し上げると、適正な処理がされているのかということが課題です。
会 長	回収してよいところだけ持っていった後、不法投棄するといったことがあるとか心配ではあります。
事 務 局	不当投棄されると、その処理については行政が行うことになり、税金を使うことになります。
会 長	そのような可能性はある。紙や布はよいが、金属類となると不法投棄等の可能性はあると思います。
事 務 局	行政の立場としては、廃棄物を適正に処理する方向にしていきたい。
副 会 長	適性に処理とはどういう意味なのかということがあり、今の話でいくと、家に置いておくよりは捨てたほうがよいという、市民側の範囲でいえば適正に処理したということになる可能性もある。そのような場面が結構、特に民間事業者が活躍している状況の中には、いろいろなグレーゾーンが発生しているのが現状だと思います。昔のように市が全部行ったということはない。そのグレーゾーンがどのようになっているのかということがわかる必要がある。どのようなものがどのように回収され、どのように処理されているのかわかる必要がある。そのような調査はされていないと思います。大きな課題ではないかと思います。
会 長	廃棄物は、廃棄物を出す側の責任になります。本来、出して回収した人がどのように処理しているかということまで知らないといけない。それが原理原則である。この業者であれば安心だから任せようという段階を踏まなければならない。そこが心配だということだと思う。それはそのとおりで、事業者にするとマニフェストということも合わせて、すべて出したところの確認をするという作業が必ずあります。一般市民からすると、それはしないので、信頼して任せるということになる。信頼できるところを市が選定して委託するといったところを代行しているわけです。グレーの業者がしっかりやっているか確認できないから推奨できないということです。
副 会 長	理屈としてはそうなります。
会 長	隙間がある。隙間をどのように埋めていくかというところは避けては通れない。そ

発 言 者	内 容
	こは課題である。資料4で、「燃えるごみ」と「可燃ごみ」という言葉があるが、これは同じである。今はどちらを使っているのですか。
事 務 局	「燃えるごみ」です。
会 長	資料6の排水のところであるが、令和元年度の縦の列を見ると、非水洗化人口が増えている。これは市の許可はいるのですか。非水洗化するかしないかは、市民の選択なのですか。自分で選択ができるのですか。
事 務 局	非水洗化人口というのは、し尿汲み取りがそれに当たる。今はし尿汲み取りというのは、新しく家を建てたときには合併浄化槽、あるいは下水につながるということになります。
会 長	それしかいけないということですか。建築許可でそうなっているのですか。それでは、増えているのはなぜですか。
事 務 局	し尿汲み取りの人口は100人程度ですが、それ以上の人数が計上されているのは、おそらく計画処理区域内人口というのが日進市の総人口になっていますが、そこから水洗化人口を差し引いた数字イコール非水洗化人口となります。浄化槽人口は、愛知県の浄化槽台帳を基に出している数字になります。本来、家主が浄化槽を設置した際に、愛知県へ届け出をする義務が愛知県にはありますが、そこを怠っていると、その方が浄化槽をつくっているか下水につないでいるのかという把握ができない。そうすると例えば非水洗化人口に入ってしまったりする。
事 務 局	県の台帳はあまり更新がされていません。今、県から、本年度中に現況に合わせた調査を含めて、見直し作業をするという話は聞いています。実態に近い数字が、来年度以降は拾えると思っています。
会 長	全体としては違ってきても影響はないと思うが、これは市の財政の問題なのですか。何か考えろという内容はあるのですか。制度を変えてほしいということがあれば、提案ができると思います。それが実行できるかどうかはわからないが提案はできると思います。下水か合併浄化槽か、これでないと認可しないということがあれば、それ以上のことはできないし、他に行動として委員会のできるものがあれば、ここで議論すべきだとは思いますが。
事 務 局	制度そのものは大きくは変わっていません。ただ、公共下水道事業を優先するかというと、行政の財政的な部分があります。何にしても排水処理を適正に行う方向に持っていくということだと思います。
会 長	非水洗化人口が増えています。
事 務 局	実態を掴みながら、非水洗化人口を減らしていくということは考えていきたい。
会 長	今の議論を整理すると、まず目標項目については、今までの項目は引き続き対応をして、それからさらに必要な項目がありそうであるので、それについては議論をしていくことになる。また、今までの令和8年度の目標値、理想値、この数字を設定したときの状況を振り替えるということと、そのときに想定した人口等の数値と現状をもう一度見直すという作業を行うということでしょうか。もう1つ、リサイクルの実態について、もう一度よく認識をした上で、今後、現行の仕組みを活用するものは活用し、修正していくことは修正していくことについての議論をしていくということでしょうか。

発 言 者	内 容
	か。
副 会 長	事業者のごみの問題をどうするのかということについて、前回の改定でも議論になりましたが、有効な話になっていない。それも加えてほしい。
事 務 局	事業系の廃棄物ということですか。
副 会 長	事業系の廃棄物である。市民にお願いとは違う議論で少し考えていかないといけない。その辺りはどのような方法があるのかも含め、課題認識しておいたほうがよい。
委 員	事業ごみのことで、最近、意識があり、分けるためのコンテナを用意したり、社内の中につくった。大変かもしれないが、例えば業者に調査に入って悪いところを見つけ、わからなければこれはこうであるとか、ある程度、指導的な調査もしてもらおうとよいかもしれないと思います。当社はネット等を見て、こうするとみんなが出しやすいなどと話し合い、少しずつ会社の中が変化しています。わからないこともあると思うので、そういったこともお願いしたい。また、不法投棄については、私たちにはわからない部分があるので、市でそのような場所があれば写真を撮って広報等に載せてもらえればと思います。そうすると、この場所にこのようなごみを出せばよいということが市民にもわかると思う。もう1つ、家庭ごみの8割が水分で、それを燃やすのに費用がかかる。ある程度の人数を決めて主婦のグループなどに協力してもらい、まず水分を取って出した場合、どのくらい違いがあるのか数値化をしてもらおうとわかつています。絞った場合と絞ってない場合、重さがどれくらい違うのか、費用がどのくらい違うのか、数値で見るとわかりやすい。日本は世界に比べてロスが多いというニュースを見る。こういったことに参加することにより、意識を高める方が出てくると思います。
事 務 局	前回のときに分別はお願いしました。大きく変更したことにより、市民の方々には大変ご迷惑を掛けましたが、1つ変わったこととしては、今まで分別が進んでいなかった東郷町も尾三衛生管内で将来に向け分別を進めていこうという足並みを合わせることができました。ただ、分けてほしいということをも市民の方に伝えただけで、日々の事業の中で、出し方がよくわからないという問い合わせもあります。ガイドブックというどこの市町も出しているような紙だけではなく、その部分を動画などでもう少し別の法で伝えられないか研究をしているところです。また、先ほどお話いただいた、水分を減らすことも1つの可能性を含んでいます。そもそも水切りというのは単純に絞るだけではなく、もっと他の方法で工夫されている方は日進市の方に当然いると思います。先ほどお話いただいたように、主婦の方々や団体、グループにいろいろな意見をもらいながら、上手なやり方、日進なりの上手な水分の減らし方みたいなものを、市民の方の知恵をいただきながらやっていきたいと思っています。そのような団体を知っていれば場をつないでもらい、私どもから話をしていきたいと考えています。皆さんからのご紹介もお願いしたいと思います。
委 員	単純にごみを袋に入れるときに水分を搾るだけでよい。難しく考えると長くは続かないと思います。
事 務 局	その日のうちに、しっかりと搾ればよいと思います。そういったことを上手にやっている人の知恵を借りて市全体に広げていきたいと考えています。
委 員	税金が安くなるといえば、協力してもらえらると思います。

発 言 者	内 容
事 務 局	実態が市民の方々に届いてないというところがあるので、その辺は処理場の方と協力しながら伝えていきたいと思います。
会 長	他はいかがですか。
委 員	税金の話ですが、今、尾三衛生組合では3市町から分担金というかたちでお金をいただき運営しています。規約改正でごみの搬入率、人口率で負担してもらっていました。今までごみの搬入率と人口の割合を50%対50%で計算していましたが、今年から人口割合を40%、ごみの搬入割合を60%となり、最終的に来年度から、ごみの搬入割合70%、人口割合が30%で負担してもらうこととなります。よそのまちも、ごみを減らせば減らすほど分担金は減るので、いろいろな施策を考えていると思います。日進市もしっかり考えてもらうと、組合に払う額は減るので頑張ってもらいたい。そうすると、より成果が出ると思います。
事 務 局	3市町のそれぞれの責任ということで、3市町が競うことによって最終的に処理しなければならない廃棄物を減らすというのが、本来3市町の大目標としています。そのような意味では、施策をできるだけ揃えて、廃棄物のことに意識を持ってもらえるような流れに持っていきたい。東郷町もみよし市も、そういったことを伝えながらやっていこうということで今回の規約改正にもつながりました。最終的な理想は搬入割合100%というようにモデル地区になるようにやっていこうと調整をしています。とにかく全体総額を減らすのが目標です。
会 長	事業者の話がありましたが、事業者としての意見はありませんか。提案などでもよいですがいかがですか。今、SDGsの考えが随分と広がりつつありますが、特に企業としての今後は注目されています。その背景をどんどん活用して、分別やごみの削減を促すような方法が取れるとよいと思います。実態を自分で知ることから始めないと、次の行動がない。そこから何かできると思います。それもこれから議論をしながら進めたい。時間が迫ってきましたが、意見はありませんか。 では、今の議題については終了します。その他、事務局からいかがですか。
事 務 局	次回の会議の予定は、運営部会になります。当日資料1の部会委員と書いてある方が対象となります。運営部会は6月21日の月曜日に行う予定です。事務局からの資料は早めに送ります。
事 務 局	7月にも、もう一度運営部会があり、8月に策定委員会を行う予定です。日程については調整をします。
副 会 長	お願いがあります。今日の資料の完成版のPDFをメールでいただきたい。
会 長	皆様の協力で、時間内に議論ができました。以上で、第4回の策定委員会を閉会します。
	— 閉会 —